

中核機関のイメージ（案）

【成年後見制度利用促進に必要な機能と茅ヶ崎市の現状】

① 広報機能

- ・ 市民後見人養成研修（第 1 期生 4 名が名簿登録、第 2 期生 3 名が実践研修中）
- ・ 成年後見支援ネットワーク勉強会（今年度 3 回実施予定）
- ・ 講演会の実施（一般市民向け 今年度 12 月 14 日予定）
- ・ 広報紙・チラシ等での周知
- ・ 関係機関への制度や連携についての説明・コンサルティング

② 相談機能

- ・ 中核機関による市民向けの相談対応
- ・ 複数の相談機関（S ネット、地域包括支援センター、福祉相談室、相談支援事業所、市社協、市）による市民向けの相談対応

③ 利用促進機能

- ・ 市民後見人の養成（平成 28 年度から令和元年度で 2 期目）
- ・ 市社協の法人後見（平成 28 年 1 月～）
- ・ 成年後見制度利用支援事業
- ・ 各相談機関での申立支援

④ 後見人支援機能

- ・ 親族後見人への支援
- ・ 受任調整会議の実施
- ・ 市民後見人への支援
- ・ 後見人等選任後のチーム会議の実施（設置後要検討）

⑤ 不正防止効果

- ・ 家庭裁判所の監督機能（設置後要検討）

【委託先とその長所】

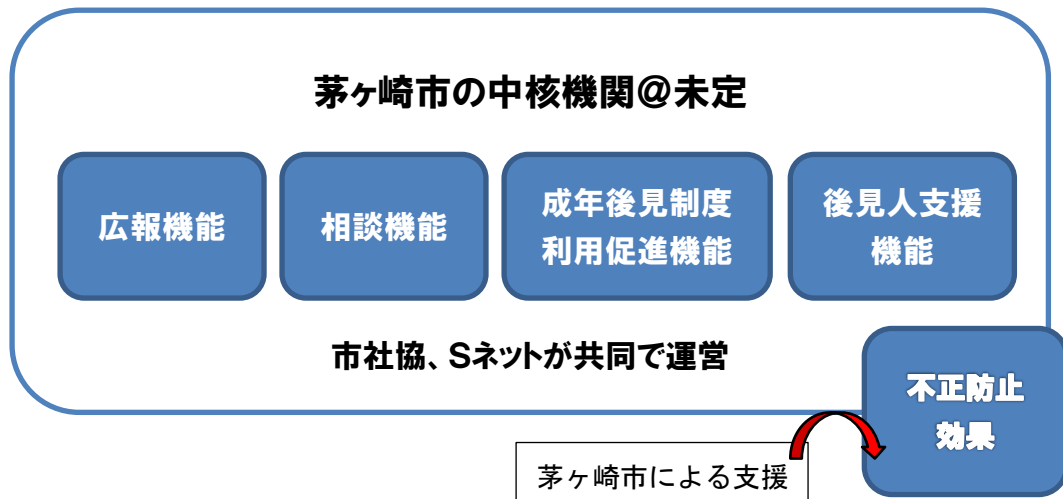
●茅ヶ崎市社会福祉協議会

- ・ 「市社協」という組織としての信頼性、継続性
- ・ 市民後見人の養成実績
- ・ 日常生活自立支援事業の実施
- ・ 法人後見の「最後の砦」

●成年後見支援センター（S ネット）

- ・ 10年に及ぶ権利擁護に関する相談支援の経験
- ・ センターとして地域に定着、継続利用する利用者がいる
- ・ 法人に弁護士がいる
- ・

【イメージ】



【茅ヶ崎市の中核機関の方向性】

- 判断能力に不安を感じ始めたなどの早期段階からの対応も行う。総合的な権利擁護の相談支援機関
 - ・ 広報機能により相談につなげやすくなる。
 - ・ 早期の段階で後見人等の検討を可能とすることで、本人への意思決定支援を含めた機能をもつ。また、関係機関と世帯丸ごとの総合的な支援を行う。
- 既存の地域連携ネットワークをより強固にし、「チーム」での支援を可能にしていける
 - ・ 勉強会等により、関係機関、専門士業のチームづくりの支援を行う。
- 段階的に機能を増やしていける柔軟な機関
 - ・ 初期段階では、市民及び関係機関への広報、関係機関へのコンサルティングに注力。
 - ・ 段階的に後見人の支援や監督機能を検討していく。

【当面の取り組み】

●周知啓発

- ・ 関係機関の相談窓口としての周知の徹底・関係機関へのコンサルティング
- ・ 関係機関や団体の行う権利擁護に関する講座、講演会、研修等のニーズに合わせた周知

●チームづくり支援

- ・ 成年後見支援ネットワーク勉強会等での関係機関の連携体制づくり

●成年後見制度の利用促進

- ・ 親族後見人への申立て支援、提出書類等の支援

【体制案】

パターン①

市社協	管理職 ○人 常勤 ○人
S ネット	非常勤 ○人
市民後見人	○人
合計	○人

パターン②

市社協	管理職 ○人 常勤 ○人
S ネット	常勤 ○人 非常勤 ○人
合計	○人

パターン③

市社協	管理職 ○人 常勤 ○人 非常勤 ○人
S ネット	非常勤 ○人
合計	○人